

授業科目

福祉用具演習II (コミュニケーション機器)

担当教員名 前田 雄、須田 裕紀、林 豊彦	対象学年	2	対象学科	義肢
	開講時期	後期	必修・選択	必修
	単位数	1	時間数	30

ディプロマポリシーとの関連性

知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現
◎	○	○	◎	◎

授業の概要

運動機能障害、言語機能障害、聴覚障害などに起因するコミュニケーション障害はコミュニケーション機器等を用いて、コミュニケーション能力を代替または拡大することができる。講義では代表的機器である意思伝達装置、環境制御装置について修得し、合わせて関連する技術についても理解する。

授業の目的

コミュニケーション機器の適応となる疾患と疾患に伴う環境要因について理解し、様々な機器の特徴と機能を考慮して適応について学ぶ。さらに、機器の導入によって生じる様々な変化について、考察し検討方法を学ぶ。

学習目標

1. リハビリテーション工学の概念とコミュニケーション機器・環境制御装置について説明できる。
2. 文字・座標等の選択方式について説明できる。
3. コミュニケーション機器と環境制御装置の実例について習得する。
4. 臨床応用例、機器と人間、環境との適合について説明できる。
5. リハビリテーション工学とコミュニケーション機器との関係について説明できる。
6. 今後の研究開発課題について分析できる。

授業計画

回数	授業計画・学習の主題	学習方法・学習課題・備考	担当教員
1	リハビリテーション工学の歴史・概念	講義	須田 裕紀
2	リハビリテーション工学におけるコミュニケーションの捉え方	講義	林 豊彦 他
3	コミュニケーション能力開発	講義	林 豊彦 他
4	コミュニケーションの代替・拡大	講義	林 豊彦 他
5	リハビリテーション工学周辺技術と実際のアプローチ	講義	林 豊彦 他
6	文字の選択	講義	林 豊彦 他
7	文字の選択方法	演習	林 豊彦
8	電子回路の基礎	講義	林 豊彦 他
9	コミュニケーション機器の電子回路	講義	林 豊彦 他
10	コミュニケーション機器と装具	演習	須田 裕紀 他
11	コミュニケーション機器の臨床評価	講義および演習	林 豊彦 他
12	福祉用具プランナーに必要なコミュニケーション・社会参加の定義	講義	前田 雄 他
13	環境制御装置の実際	講義	林 豊彦 他
14	今後の研究開発課題	講義	林 豊彦 他
15	まとめ (到達度評価)	質疑応答	須田 裕紀 他

使用図書

使用図書	書名	著者名	発行所	発行年	価格	その他
教科書						
参考書						
その他の資料	配布プリント					

評価方法

授業内の課題レポート、演習の態度と到達度。

履修上の留意点

非常勤講師による講義のため、不定期となりますので開講日に注意すること。事前に欠席することが明らかな場合には学科担当教員まで欠席届けを提出し、与えられた課題を指定日までに提出すること。また、部・サークル活動による欠席についても課題提出が必要となります。事前連絡がない場合は欠席として扱います。講義・演習も含めた課題を出します。出席していただければ単位認定をしません。

オフィスアワー・連絡先

連絡先

suda@nuhw.ac.jp

yu-maeda@nuhw.ac.jp

対応可能な研究室・日時等については、授業開始時にお知らせします。